

駐大連北九州市経済事務所

◆所長 田代 昇三 ◆副所長 益野 裕至

◆副所長 呂 俐

田代 E-mail: yumeiyasu4411@yahoo.co.jp

『第7回大連日本商品展覧会』が開催されました

少し配信が遅くなりましたが、昨年、「第7回大連日本商品展覧会」が開催されました。連日非常に多くの大連市民が来場し、日本商品への人気の高さがうかがえました。

○概要

同展覧会は大連市内の世界博覧広場において大連市人民政府、中国国際貿易促進委員会大連分会主催で開催され、当事務所をはじめ多くの日本の地方自治体や日系企業が参加し、地元商品の販売促進活動や観光誘致活動を行ないました。

連日、開場時間前から入口には非常に多くの来場者が列を作り、日本商品のへの関心の高さ、日本商品に対する購買意欲の高まりを感じる事が出来ました。



会場の様子①



会場の様子②

今年で7回目の開催となった同展覧会は昨年よりも参加企業・団体が増加し、40ブース多い180もの特設ブースが設けられました。各企業や団体がそれぞれの特色を出しており、地域の伝統工芸品(刃物・爪切り・鉄器等)、日用品(洗剤・歯磨き粉等)、化粧品、食品(健康食品・お菓子・日本酒等)など多岐にわたり販売されていました。

中国人来場者は多くの高品質で新しい日本商品を探し求めており、ここ大連でも日本で行われている中国人客の爆買いの様子を垣間見ることが出来ました。



販売風景①



販売風景②

○本市企業 シャボン玉石けん様も展示・販売

当事務所のブースでは、北九州市の観光案内を行なうとともに、北九州市内企業商品の販売・宣伝の後方支援として、中国国内で既に販売されている「シャボン玉石けん」様の販売を行ないました。ブースを訪れた多くの来場客は実際に商品を手に取り、商品の特徴等について熱心に質問し購入して行きました。他ブースにおいても日用品・食品を中心に多くの商品の売れている様子が見られました。

○所感

同展覧会も含め、様々な商談会・店舗等で日系企業が中国で商品を販売・宣伝している様子を拝見して、改めて「中国人が興味を示すキーワード」「日本で人気があることを表すキーワード」を端的にかつ分かり易く PR することの重要性を感じました。

例えば、子供から大人まで食べることができ、どの世代の身体にも非常に良い影響を与える食品を中国で販売・宣伝しようとした場合、日本であれば全世代を対象に宣伝をするケースが多いと思います。しかし、中国人の 1 つの特徴として大人や老人にはあまりお金をかけず、特に子供に対して非常にお金をかけるという傾向があるため、当該商品が大人や老人の健康にも良い影響を与えるとしても、PR する際にはターゲットを子供に絞ることが重要だと感じます。

従って、上記の食品のケースでは「子供の健康に良い」ことを分かり易く伝えるキーワードを用いて PR すると中国人消費者の関心を引きやすいように感じます。また、「日本で人気 NO.1」など、日本で非常に人気がある・売れている旨のキーワードも中国人消費者の注目を集めます。

少しの違いかもしれませんが日本人消費者との違いに気づき、中国人消費者の嗜好や傾向を把握することが商品の知名度向上のきっかけになるのではないのでしょうか。

『2015 大連地方銀行合同ビジネス商談会』が開催されました。

昨年末、「大連地方銀行合同ビジネス商談会」が開催されました。

同商談会には日系企業 119 社、中国企業 385 社が参加し、大盛況に終わりました。

大連人民政府と日本の地方銀行 13 グループ 17 行主催による「大連地方銀行合同ビジネス商談会」が開催されました。今年で第 6 回目を迎えた同商談会は、大連市対外貿易経済合作局、中国国際貿易促進委員会大連分会等の様々な団体が協賛に加わり、大連における最も大きな商談会の 1 つとなっております。



開幕式の様子



会場の様子

今年の参加企業数は日系企業 119 社に対し、中国企業 385 社(昨年 200 社)、商談件数は 2,111 件(昨年 1,625 件)と過去最多を更新しました。参加企業数や商談件数を見ても、中国企業が以前に比べさらに日本の商品・技術・サービスに対して関心を高めていることが非常に感じられます。

従来と同商談会参加日系企業は「中国からモノを調達したい」「中国で協力工場を探したい」という製造業が 8 割程度を占めていました。しかし、今年は製造業が 6 割を下回り、代わりに「中国で自社の商品を販売したい」「中国で自社のサービスを展開したい」という食品関連企業やその他のサービス関連企業が大幅に増加しました。

◆商談事例

例えば、食品関連では調味料(醤油・味噌・だし等)、水産加工品(カニ・エビ・イカ・すり身等)、食品包装資材(弁当箱・ラップ等)を取扱う企業が中国国内での販売先を探し、その他サービス関連では物流、ソフトウェア開発、ブライダル関連等の企業が中国でのサービス展開を模索し取引先を探すなど、非常に多くの商談が行なわれました。

また以前は有名な商品を取扱う企業に商談希望が集中していましたが、日本商品の品質の高さが認識され、有名ではなくても特徴がある商品や技術にも注目が集まるように変化してきており、以前よりも中小企業にとってビジネスの機会が広がっているように感じます。

○大連の物価事情について

最後に

以下の写真は大連市内の当事務所が入居している森ビル近くにある日本料理店での昼食です。

このお店は日本人駐在員以外にも森ビルで働く中国人従業員もよく利用する一般的な日本料理店です。

お店の人気メニューであるホルモン鉄板定食の値段は・・・なんと 45 元(約 900 円)です。

中国は物価が低いと思われていませんか？

実情は北九州市で昼食を食べる場合と同じ、もしくはそれ以上の金額なのです。



○大連の厳寒が到来！ 最高気温もマイナスです。体感気温はマイナス 10 度を超えます！

